

水害から私たちの暮らしを守る

一級河川 平瀬川 背水堤防整備工事



水害から地域を守るために…

平瀬川に堤防をつくります

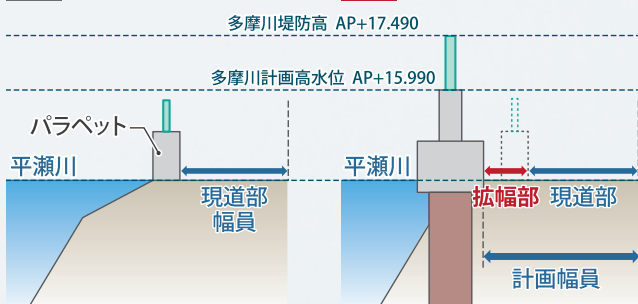
令和元年東日本台風により、多摩川田園調布(上)水位観測所等で計画高水位を越える状況の中、平瀬川においても水位が上昇し、管理用通路水抜き穴からの浸水、東久地橋桁下からの浸水、平瀬川の堤防からの越水が確認され、約6haの浸水被害が発生しました。

Map data ©2026 Google

これからの水害に対応するために

現況

計画



本事業は令和元年の台風被害を受けて、今後起こりえる水害への対策として、令和3年度に策定された「多摩川水系平瀬川ブロック河川整備計画」に基づき、一級河川多摩川と一級河川平瀬川の合流部対策として多摩川計画堤防高に合わせた自立式特殊堤を平瀬川に構築する事業です。

洪水リスクの低減

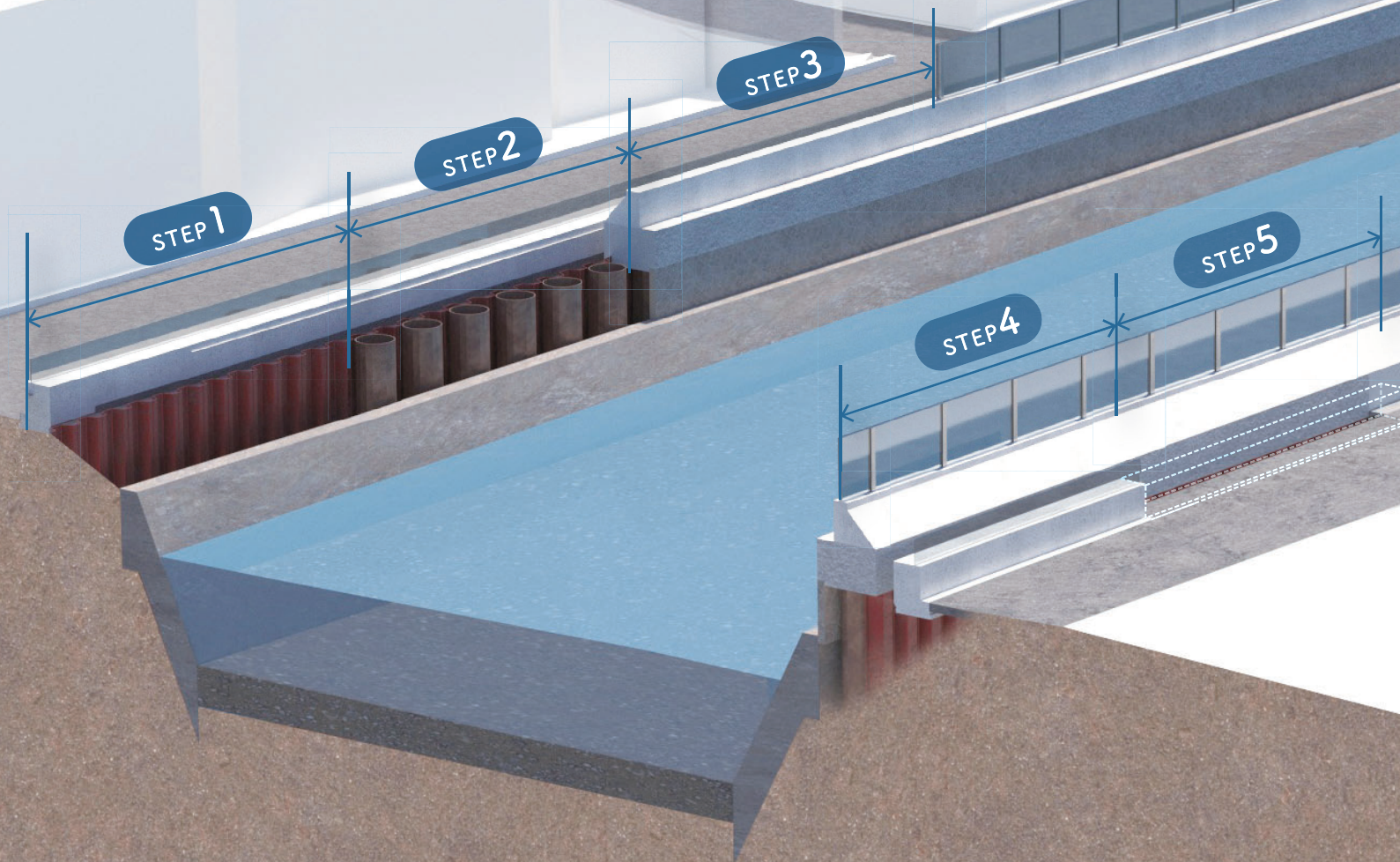
新たに構築する自立式特殊堤の上部のアクリル止水パネルは、多摩川の堤防と同じ高さとなっているため、多摩川増水時の洪水リスクを低減します。

長距離にわたって、堅固な堤防をつくる

工事概要

工 事 名：一級河川平瀬川背水堤防整備工事
発 注 者：川崎市建設緑政局 道路河川整備部
南部都市基盤整備事務所
施 工 者：鹿島・不動テトラ・西武共同企業体

工 事 場 所：神奈川県川崎市高津区久地2丁目地内(平瀬川)
堤 防 形 式：自立式特殊堤(鋼管構造)
工 事 内 容：工事延長 左岸 646.1m 右岸 660.7m
工 期：令和7年(2025年)3月31日～令和15年(2033年)3月31日



工程表

年度 月	R7年度			R8年度			R9年度			R10年度			R11年度			R12年度			R13年度			R14年度		
	4	8	12	4	8	12	4	8	12	4	8	12	4	8	12	4	8	12	4	8	12	4	8	12
仮設構台																								
1工区																								
2工区																								
3工区																								
河川管理用通路																								

生活に寄り添う コンビ・ジャイロ工法

鋼矢板と鋼管杭を圧入する方法として、コンビ・ジャイロ工法を採用します。
圧入機などの各機械は、先に圧入した鋼矢板や鋼管杭の上を自走しながら、圧入作業を行うことができるため、発進場所である仮設構台から離れたところでも施工が可能です。

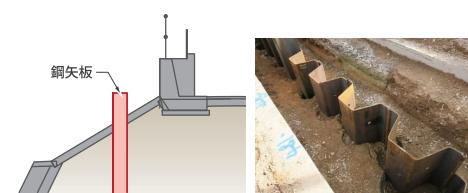


メリット

- 場所をとらない**
施工機械が小さいため、狭小で空頭制限のある所における施工に優れる
- 生活への影響を抑える**
杭の圧入機は杭の上を自走して施工できるため、仮設構台を河川内全域に構築する必要がない
- 環境にやさしく**
杭を圧入する際に発生する排土がほとんどない
- 振動が少なく静か**
杭を圧入する際、振動、騒音がほとんどない

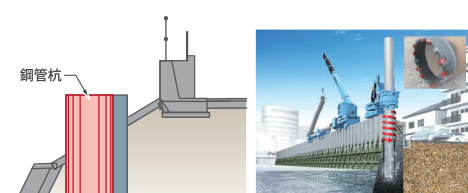
STEP1 鋼矢板の圧入

幅90cm、長さ8～9mの鋼製の板を1枚ずつ圧入します。



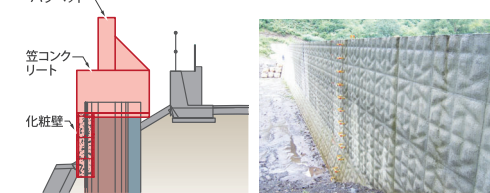
STEP2 鋼管杭の圧入

直径1～1.2m、長さ20m前後の鋼製の筒状の杭を1本ずつ圧入します。



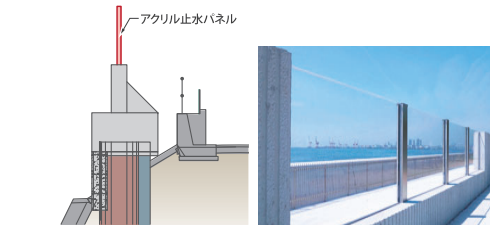
STEP3 上部堤体の構築

下から化粧壁→笠コンクリート→パラペットの順で、コンクリートを打設します。



STEP4 アクリル止水パネルの設置

パラペットの上にアクリル止水パネルを設置します。



STEP5 既設堤防の撤去

既設堤防を撤去します。



通行安全性の向上

新設堤防は既設堤防よりも川側に構築し、既設堤防は撤去するため、道路幅が現在よりも広くなり、通行する際の安全性が向上します。

見えない部分も堅固な

あたらしい堤防の特徴

アクリル
止水パネル

本事業でつくるあたらしい堤防は、
地中深さ約20mまで到達します。
地中には役割の異なる2種類※の
埋設物を施工し、水害時に地域を
守ります。

※1種類のみ場所もあり

高さ 最大約4.4m

平瀬川

深さ 約8m~9m

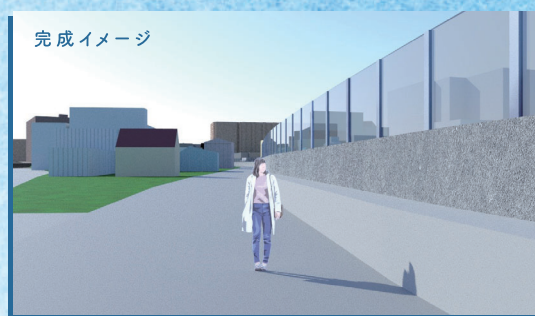
ハット型
鋼矢板

深さ 約20m

鋼管杭

支持層

完成イメージ



地域の景観を守る

アクリル止水パネル

1.5mアクリル止水パネルの採用



効果

圧迫感が軽減し、景観性が向上。
現況と同じくらいの日照を確保できます。

水害から地域を守る

ハット型鋼矢板

水をふせぐ



効果

ハット型鋼矢板※を地中に連続して圧入
することで、鋼製の壁を地中に構築し止水性
を確保します。 ※長さ8~9m

鋼管杭

揺れにつよく



効果

地表面から約20mの深さにある硬い支持層
(N値50以上の礫まじり細砂)まで、鋼管杭を
圧入することで、水に押される力や揺れにも
耐えられる堤防になります。

く

ら

べ

て

み

よ

う

！

あたらしい堤防で使われる鋼管杭・ハット型鋼矢板の長さや広さはどのくらいなのでしょう？
また、その重さはどのくらいになるのでしょうか…？皆さんが知っているものと比べてみましょう！

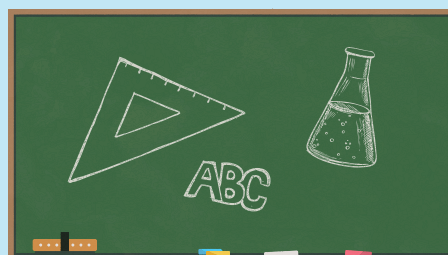
鋼管杭の長さ

鋼管杭を全てつなげると約10,000mにもなります。
これは、標高8,849mのエベレストのはるか上空まで
届く高さになります。



鋼矢板の広さ

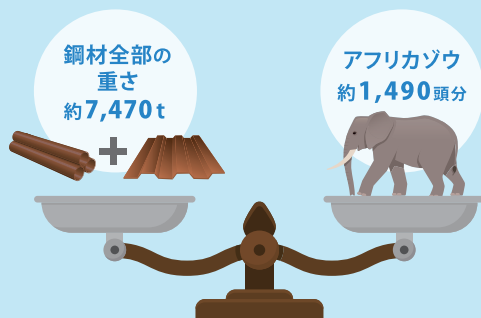
鋼矢板をつなげて作った壁は、全てつなげると約
10,000m²になります。これは黒板約2,315面分と
同じ広さであり、私たちの生活を水害から守ります。



黒板 2,315面分

鋼材の重さ

鋼管杭と鋼矢板を合わせた重さは、アフリカゾウ
1,490頭分に相当します。



こんなに長くて重いものを
使って堤防をつくって
いるんだなあ…

発注者

川崎市 建設緑政局 道路河川整備部
南部都市基盤整備事務所
〒211-0041 川崎市中原区下小田中 2丁目 9-1
TEL : 044-755-2277

川崎市 建設緑政局 道路河川整備部
河川課
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町 1番地
TEL : 044-200-2904

施工者

鹿島・不動テトラ・西武共同企業体 平瀬川背水堤防JV工事事務所
〒213-0032 川崎市高津区久地1丁目 2-3 ZOEビル2階
TEL:044-819-9061